

研 究 紀 要

第 1 8 号



令和 4 年 3 月

鹿児島県立青少年研修センター

《 目 次 》

はじめに	1
I 研究の経緯	2
II 研究組織	2
III プロジェクト研究	3
1 社会的背景と課題	
2 研究主題	
3 研究主題設定の理由	
4 昨年度（令和2年度）の取組（1年次）	4
5 本年度（令和3年度）の研究内容（2年次）	5
6 研究計画	
7 研究の実際	7
(1) 集団宿泊学習における体験活動の有効性についての検証	
(2) 単元指導案についてのアンケート	14
(3) 単元指導案を活用した活動プログラムの検証	
(4) 単元指導案の作成	17
(5) 主催事業における「体験活動」と「生きる力」の関連性の検証	18
8 研究のまとめ	46
IV スキルアップ研修	47
1 本センターの職員の現状と課題	
2 スキルアップ研修の必要性	
3 スキルアップ研修の実施内容	
4 スキルアップ研修の実際	48
5 スキルアップ研修を終えて	63
参考（主催事業報告）	65
おわりに	75

〔別冊〕 単元指導案集

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響下での社会状況が2年以上続き、本センターでも子どもたちや利用者の歓声を聞く機会が制限された令和3年度でした。一日も早いコロナ禍以前の状況への回復を願ってやみません。

さて、「子どもたちにとって、なぜ体験活動が必要なのか？」という問いに対し、様々な研究実践がなされ、一言で言えば、「子どもたちの成長にとって非常に効果的だから」という研究成果が、数多く示されています。私たち青少年研修センターは、児童生徒にとって有意義な体験活動を提供していくことが、施設の大きな使命です。また、現行の学習指導要領でも、学校と社会が一体となって子どもたちを育てていくことの重要性が謳われ、体験活動の必要性が述べられています。

そのような中、私たちは、令和2・3年度のプロジェクト研究として、「学校と連携・協働した体験活動の在り方～教育課程への位置付けを目指して～」という研究テーマを設定し、研究実践を重ねてきました。各学校では、より豊かな体験活動を通して、生きる力を育むために集団宿泊学習を実施しています。これまでも青少年社会教育施設は、その場所やプログラムを提供するという役割を担ってきましたが、集団宿泊学習における教育的価値を再認識し、学校の教育課程へどのような形で関わっていけるのか、という視点で既存の活動プログラムを見直し、教育課程との関連をより一層意識したプログラムを開発いたしました。これにより、集団宿泊学習のより一層効果的な実施につながり、学校と一体となって児童生徒の健全育成に向けた役割を果たすことができるのではないかと期待しているところです。

また、本センターにおける研修活動の充実のためには、各種活動プログラムの指導・支援を行う本センター職員の資質向上は、欠くことのできないものです。本センターでは、年間を通してスキルアップ研修を実施しており、その内容もとりまとめました。よりよい研修活動の実施に向け、今後も自己研鑽に努めて参りたいと考えています。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、資料提供やアンケート調査に御協力を賜りました関係機関の皆様方に心から感謝を申し上げますとともに、不十分な点や御教示いただけたところをございましたら御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和4年3月

鹿児島県立青少年研修センター
所長 伊藤 太

I 研究の経緯

令和2年度は、新学習指導要領（現行）の完全実施にともない、各学校で授業時数の増加に伴う教科時数の確保が教育課程編成上の大きな課題となっていたことに着目した。本センターの活動プログラムを、各学校の教育目標、各教科の指導目標・内容と合致するように工夫改善し、学校と連携・協働した授業カリキュラムの構築がなされれば、集団宿泊学習における教科等の時数確保の一手段となるのではないかと考え、本センターの活動プログラムの中から6つを取り上げ、それぞれに単元指導案を作成した。また、それらを1つにまとめ「単元指導案集」を作成することができた。しかし、単元指導案をもとにした、実際の活動プログラムの展開による検証には至らなかった。

一昨年度末から新型コロナウイルス感染症の影響が次第に広がり、集団宿泊学習の実施形態も変化を見せてきた。一日研修や宿泊を伴わずに実施する学校も出てきており、規模を縮小して実施する学校が目立った。この状態が長く継続すれば、集団宿泊学習の良さや教育的効果の認識が薄らいでいくことも危惧される。よって、集団宿泊学習の有用性を今一度ここで検証することも必要であると考えた。

そこで、本年度の「プロジェクト研究」では、まず、集団宿泊学習実施校を対象に調査を行い、本センターで展開される集団宿泊学習の有用性を検証することにした。次に、昨年度の研究を継続し、実際に作成した単元指導案をもとにした活動プログラムの展開による検証や新たな単元指導案の作成を行うこととした。

また、社会の変化や県民のニーズなど、利用者の多様な要望に応えられる専門職としての資質を高め、利用団体に有意義であったと満足してもらえるよう、本年度も職員研修に「スキルアップ研修」を位置付け、計画的に実施していくこととした。

II 研究組織

